

3. 実践学習

学生の希望する進路を意識しながら、農林業者として必要な実践能力を身につけるため、学科毎に、講義、実験・演習、実習を有機的に関連させながら農業経営等に必要な知識、技術を習得させる。

また、主体的な学習とするため、1年次には学科単位で地域協働研究に、2年次には一人一課題を基本としたプロジェクト方式による学習に取り組み、その成績をもとに卒業論文をまとめ、経営者感覚を磨かせる。

(1) 進路指導（別表1：進路指導体系）

1年次は職業意識を高める取り組みを中心に進路指導を行う。20日間実施する先進農業者等体験学習（食品関連産業実習・先進林業者等体験学習含む）で実際の生産現場での体験を積み、加えて、進路サポートコースごとに実施する懇談会、相談会、研修会などを通じて、進路を具体化していく。

2年時は進路目標を明確にしたうえで、直接生産現場に行く機会を増やして、就農・就職先等との相互理解を深め、進路を決定していく。

(2) 学科別の実習・演習（別表2：実践学習体系）

① 専攻実習

1年次は、学科毎に、ほ場・施設を活用しての基本技術の習得を重点とする。さらに卒業論文を進めるための調査方法を習得させる。

2年次は、卒業論文の取組みを進めながら、栽培技術等の実践学習を深めさせる。

② 卒業論文

営農に必要な基礎的知識、技術の習得と自主学習を助長するため、下記の流れで、自ら設定した課題の調査研究を実施させる。

課題設定	地域や自家の農林業における技術的な課題や経営上の問題点を分析したうえで、具体的な到達目標を設定する。
計画樹立	卒業論文計画（演習）の中で、必要となる調査項目や方法、スケジュールなどについて確認し、卒業論文計画発表会を実施する。
実践	卒業論文（演習）の中で、校内圃場での実験・調査等に加えて、地域や実践者など外部と連携を重視しながら、実践学習を進める。
評価	これまで調査・分析したデータ等に基づき、取組内容を論理的にまとめて卒業論文発表会において成果を発表する。

(3) 地域協働研究活動（別表3：地域協働研究プロジェクト）

地域の振興や活性化に繋がるばかりでなく、学生の地域に対する愛着や誇り、コミュニケーション能力を養い、本校の掲げる目標である「優れた担い手及び地域リーダーの育成」に必要な資質の向上を目指す。

(4) 資格取得（別表4：資格・免許等）

生産現場等で即戦力として必要となる資格・免許等の取得を推進する。

別表1 進路指導体系

	就農コース	雇用就農コース	就職コース	進学コース	
1 学 年	4月			英語基礎力判定テスト	
	5月	三者面談①(進路コース決定)			
		卒業生との懇談会			
	6月		就職相談会① (就職先のリサーチ)		
		先進農林業者等体験学習<前期>10日間			
	7月		就職相談会① (就職先のリサーチ)	TOEIC受検始期	
	8月	農業アルバイト			
	9月				
	10月	先進農林業者等体験学習<後期>10日間			
	11月	三者面談②(進路方向確認)			
	12月	未来の農業をつくる学生向け研修会(全国)			
	1月		林業会社説明会(やまがた森林と緑の推進機構)		
	2月	キャリアカウンセリング①		山形大学生(本校OB)との懇談会	
	3月	就農・就職に向けたキックオフイベント(就職活動開始)			
	2 学 年	4月	就農計画作成始期	インターンシップ始期	インターンシップ始期
5月		三者面談③(進路最終確認)			
6月				就職相談会② (就職希望先との面談)	
		キャリアカウンセリング②			編入学願書提出
7月		就農計画発表会	就職相談会② (就職希望先との面談)	インターンシップ盛期	入学試験
8月		就農先関係機関との個別面談	インターンシップ盛期		
9月			インターンシップ終期	インターンシップ終期	
10月					
11月		新規就農予定者カード作成			
12月					
1月					
2月		担い手研修会(各農業技術普及課)			
3月					
主な指導事項	関係機関とのマッチング、就農計画・新規就農予定者カード作成等	求人情報提供、農業法人等とのマッチング、履歴書作成、面接練習等	求人情報提供、エントリーシート・履歴書作成、面接練習等	英語、小論文・面接練習等	

別表2 実践学習内容

1学年 教育計画 [稲作経営学科]

時期		実習内容			演習内容	校外研修 場所・内容
月	旬	<水 稲>	<大 豆>	<販 売>		
4	上	種子予措 播 種			[ミニプロジェクト]	
	中					
5	上	耕 起 本田施肥 代かき			[基肥施用] [苗調査] [除草剤施用]	地域協働研究
	中					
6	上	畦畔草刈	大豆種子予措 播 種		[生育調査]	体験学習① 地域協働研究
	中					
7	上	作 溝	大豆 中耕・培土①	農大市場	[生育診断]	地域協働研究
	中					
8	上	畦畔草刈	大豆 中耕・培土②		[穂肥施用]	地域協働研究
	中					
9	上	病害虫防除①			[病害と虫害]	
	中					
10	上	病害虫防除②	大豆防除①		[出穂期調査] [穂揃期調査]	
	中					
11	上	病害虫防除③	大豆防除②	農大市場	[成熟期調査] [坪刈り方法]	体験学習②
	中					
12	上	収穫 乾燥 調 製 出 荷	大豆収穫	農林水産祭	[収量調査]	耕畜連携 地域協働研究
	中					
1	上	機械点検整備	大豆乾燥	農大祭	[分解調査] [品質調査] [食味調査]	県外研修
	中					
2	上	収量調査 分解調査 品質調査 食味調査	大豆調製		[成績まとめ]	地域協働研究 醸造研修
	中					
3	上				[卒論計画作成]	
	中					
3	上				[計画発表会]	
	中					

1 学年 教育 計 画 [果 樹 経 営 学 科]

時期		実 習 内 容					演 習 内 容	校 外 研 修 場 所 ・ 内 容
月	旬	りんご	おうとう	ぶどう	西洋・日本なし	もも		
4	上 中 下		摘 芽	結果母枝誘引 (棚)		摘 蕾 ↓	接ぎ木 花粉採取・保存 防 除	地域協働研究
5	上 中 下	摘 花	人工受粉 摘 果	芽かき 雨よけ設置	摘 花	摘 果	人工受粉 着果管理	地域協働研究
6	上 中 下	摘 果 ↓	雨よけ設置 着色管理 収 穫	GA処理、摘芯 房づくり ↓		新梢管理	着色管理 房作り・摘粒 出荷調整	果樹先進技術論 体験学習 (前期) 地域協働研究
7	上 中 下	新梢管理、摘果 ↓		摘 粒	新梢管理		出荷調整 販売実習 新梢管理	温暖化対応果樹栽培技術論
8	上 中 下		夏期せん定	収 穫		収 穫	果実調査 出荷調整	
9	上 中 下	着色管理 収 穫	施 肥	施 肥	収 穫	施 肥	芽接ぎ 果実調査 販売実習	果樹先進技術論 体験学習 (後期)
10	上 中 下			施 肥			果実調査 土壌調査 販売実習	果樹先進技術論 温暖化対応果樹栽培技術論
11	上 中 下		せん定	せん定			果実調査 販売実習 せん定	マーケティング 演習
12	上 中 下	野そ対策					越冬対策	
		雪害対策 (~3月)						
1	上 中 下	せん定	せん定	せん定	せん定		卒業論文計画 作成	
2	上 中 下						名人剪定 せん定	果樹先進技術論
3	上 中 下						花芽分化調査	

1 学年 教育 計 画 [野菜花き経営学科 野菜コース]

時期		実 習 内 容						演 習 内 容	校 外 研 修 場 所 ・ 内 容	
月	旬	<果菜類>		<葉茎菜類>		<根菜類><山菜類>				
		トマト	すいか	きゅうり	キャベツ	ねぎ	さといも	うるい		
4	上 中 下	播種	播種			播種	芽出し	株分け	土壤調査	
5	上 中 下	定植	接ぎ木 ↓ 定植	播種 ↓ 接ぎ木 ↓ 定植		定植	定植	定植	苗質評価 販売実習	地域協働研究
6	上 中 下	追肥		収穫					生育調査 販売実習 〔ミニプロジェクト学習〕	体験学習
7	上 中 下	収穫	収穫		播種				生育調査 病害虫調査 収量調査	園芸農業研究所 (次世代型施設) 庄内産地研 (ネットメロン)
8	上 中 下				定植				品質調査 販売実習	地域協働研究 北村山農業技普 (すいか)
9	上 中 下						収穫		病害虫調査 販売実習 生育調査	最上農業技普 (ねぎ、アスパラガス) 体験学習
10	上 中 下				収穫				収量調査 品質調査	地域協働研究
11	上 中 下						根株 掘り取り		販売実習	地域協働研究 市場流通研修 (県外市場)
12	上 中 下						根株 保管		[まとめ] [卒業論文計画 書作成]	
1	上 中 下						伏せ込み		*経営内容 調査(各自)	
2	上 中 下	卒業論文研究の 育苗および資材準備					収穫		*発表練習	最上産地研究室 (たらのめ)
3	上 中 下								[卒業論文計画 発表会]	

1 学年 教育 計 画 [野菜花き経営学科 花きコース]

時 期		実 習 内 容			演 習 内 容	校外研修 場所・内容
月	旬	<露地切り花> アスター きく	<ハウス切り花> ダリア トルコギキョウ ストック	<苗物、鉢物> 花壇苗 シクラメン		
4	上 中 下	播種	挿し芽 播種	播種 鉢上げ	鉢上げ用土作成 施肥設計	
5	上 中 下	定植	定植	出荷	花壇苗出荷調整 地域協働研究(調査)	
6	上 中 下		整枝 定植		地域協働研究(調査) 販売実習	体験学習①
7	上 中 下		整枝 定植	播種 鉢替え	病虫害調査・防除	最上地域 (りんどう等)
8	上 中 下	収穫	収穫	播種 定植	切り花出荷調整 販売実習 土壌調査	
9	上 中 下		収穫	鉢上げ 葉組み	病虫害調査・防除 先進技術調査 販売実習	体験学習② 庄内地域 (トルコギキョウ 等)
10	上 中 下		親株 移植	収穫	需要調査 地域協働研究(調査) 鉢物出荷調整	市場流通研修 (生花店)
11	上 中 下			出荷	需要調査、販売実習 地域協働研究(生産 農家と意見交換)	市場流通研修 (県外市場)
12	上 中 下					
1	上 中 下			春夏用	卒論論文計画作成 地域協働研究(とり まとめ)	市場流通研修 (県内市場)
2	上 中 下			播種	卒業論文計画作成 卒論計画発表	村山地域 (啓翁桜等)
3	上 中 下			鉢上げ ホット 上げ		

1 学年 教育 計 画 [畜 産 経 営 学 科]

時期		実習内容						演習内容	校外研修 (場所・内容)
		肉用牛飼養管理		乳用牛飼養管理		飼料生産管理			
月	旬	繁殖牛管理	育成牛管理	肥育牛管理	経産牛管理	放牧	自給飼料生産		
4	上 中 下	飼料給与	初乳給与	飼料給与		早春追肥 と雑草防 除		飼料給与と生体反 応 泌乳ホルモン反 応	
5	上 中 下	健康状態 把握	哺育育成	健康状態 把握		放牧施設 整備 入牧	トウモロコシ播 種と除草 剤散布	健康状態と糞の性 状 放牧の意義と行動	地域協働研究
6	上 中 下	発情鑑定 と授精		ビタミンコ ント ロール		追肥	トウモロコシ畑 雑草防除	発情兆候と行動 搾乳牛の栄養管理	体験学習 (前期)
7	上 中 下		離乳	肥育度把 握				ビタミンAコン ト ロール手法	地域協働研究
8	上 中 下	分娩兆候 鑑定と分 娩介護	育成前期 子牛育成		搾乳衛生			牧草の生育と消化 性 クローズアップ期 の栄養管理	肥育経営視察
9	上 中 下	初乳給与			飼料設計	追肥		初乳給与の意義と 給与法 助産方法	地域協働研究
10	上 中 下			出荷 枝肉確認	健康状態 把握	下牧	トウモロコシ収 穫調製 イワガ収集	卒業論文予備学習 調査集計方法演習	地域内自給飼料 生産利用の取組 み視察
11	上 中 下	早期離乳 と子牛育 成	育成中期 子牛育成		乾乳期栄 養管理	放牧施設 撤去		増給方法	繁殖経営視察
12	上 中 下				泌乳初期 飼料給与 と搾乳				
1	上 中 下	削蹄		削蹄				削蹄の意義と効果 卒業論文計画書 作成	酪農経営視察
2	上 中 下								
3	上 中 下							卒業論文計画発表 会	

1 学年 教育 計画 [農産加工経営学科]

時期		実 習 内 容		演習内容	校外研修 ・ 販売実習
月	旬	<農業生産実習>	<農産加工実習>		
4	中下	は種	稲 製麴・味噌仕込み 甘酒つくり 麴の漬物加工 製粉(米粉) ふきのとう・よもぎ 摘み	一般衛生管理麴・味噌仕込み、塩分計算	
5	上中下	定植	果 殺菌の基礎(瓶詰・缶詰) ジャム加工	瓶詰加工の基礎、糖計算、酸測定、HACCP方式	
6	上中下	↓	樹 基本の洋菓子加工 缶の葉摘み おうとう 収穫・加工 米加工(伝統菓子、餅、笹巻き)	果実品質調査 原料の冷凍	直売所研修① 体験学習① 農大市場① 食品衛生責任者講習
7	上中下	↓	野 しそ収穫 梅干し加工 しそ巻き ベリー類収穫加工	原料の塩蔵	
8	上中下	収穫・片付け	菜 しそジュース加工 トマト収穫、冷凍保存(ジュース・ケチャップ) ブドウ・ももジュース加工	乾燥保存	
9	上中下	↓	産 製品化 乳製品加工 チーズ・ヨーグルト えだまめ収穫 むき豆加工	細菌検査	農大市場② 体験学習②
10	上中下	↓	実 りんご加工(ジュース・ジャム・菓子)	味噌の品質調査	農林水産祭 食品産業視察
11	上中下	↓	漬物加工 西洋なし加工(ジャム・ジュース)	果実加工品の品質評価	農大祭(農大市場③) 販売実習(県アンテナショップ)
12	上中	↓	製品化 りんご加工(ジュース)	微生物試験	
1	上中下	↓	食品品質評価演習 乳製品加工 セミハードチーズ	品質評価、製造計画と原価計算	
2	上中下	↓	大豆加工(豆腐・菓子)	卒業論文計画作成、計画発表会	工業技術センター(酒類研究)視察
3	上中	↓			

1 学年 教育計画 [林業経営学科]

時期		実習内容 (講義との関連)			演習内容	校外研修 (場所・内容)
月	旬	[造林・経営]	[機械]	[林産]		
4	上 中 下	樹木、森林生態、造林・育林Ⅰ、森林計測	チェーンソー、刈払機の構造	労働安全管理と救命救急、林業機械Ⅰ	チェーンソー、刈払機の構造及びメンテナンス 樹高、胸高直径の計測	
5	上 中 下	測 樹 植 栽 測 量	チェーンソー、刈払機の基本操作 労働安全管理と救命救急 小型車両系建設機械 (特別教育)	山菜の種類・食味	チェーンソー、刈払機の基本操作 測量基礎 苗木植栽技術 山菜の種類と食味	
6	上 中 下	林分調査 下 刈	伐木造材特別教育 刈払機安全衛生教育 伐木造材 (基礎)		林分調査の基礎 下刈の方法 伐採の基礎	
7	上 中 下	森林の分布 除 伐 病虫害防除	生産システム 車両系木材搬出機械 (高性能林業機械) 特別教育		伐採搬出システム 森林分布 除伐の方法 病虫害の種類と防除	
8	上 中 下	間伐設計 (測量)	車両系木材搬出機械 (高性能林業機械) 特別教育		間伐の設計 測量基礎 (コンパス)	・間伐設計：測量 (管内県営林)
9	上 中 下	間伐設計 (選木) ツリークライミング講習 間伐設計 (伐採)			間伐 (選木と伐採) ツリークライミング	
10	上 中 下	間伐設計 (伐採) 植 栽 苗畑実習	伐木造材 (労働安全) 高性能林業機械操作	広葉樹活用 炭焼き	苗木の生産方法 苗木の植栽方法 高性能林業機械の基本操作 木炭の製造方法 広葉樹の活用	
11	上 中 下	枝打ち	高性能林業機械操作 伐木造材 (主伐)	特用林産物生産施設学習 原木伐採 原木きのこ栽培	枝打ちの方法 間伐 高性能林業機械の基本操作 原木伐採、植菌	・きのこ栽培施設 (最上町) ・枝打ち実習 (舟形公社造林地)
12	上 中 下			木材加工施設現地研修 木材流通 木質バイオマス	間伐	・木材市場、製材所、集成材工場、バイオマス利用施設等 (県内)
1	上 中 下	間伐設計 (伐採)	はい作業従事者安全衛生教育	製材実習	卒業論文計画 冬期間伐の基礎 製材実習	・冬期間伐実習 (清水県営林)
2	上 中 下	間伐設計 (伐採) スノートレッキング 気象害調査			雪害調査 冬期伐採	・冬期間伐実習 (清水県営林)
3	上 中 下		小型移動式クレーン技能講習		卒業論文計画発表会	

2 学年 教育計画 [稲作経営学科]

氏名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
赤坂 銀志	「あきたこまち」の収量増加方法の検討	「あきたこまち」の追肥時期や回数、またバイオスティミュラント資材の適切な使用により、登熟向上と倒伏軽減効果を検証し、収量の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な施肥や資材の使用 根の活力調査と登熟や倒伏への影響評価 経営評価
黒澤 碧佐	高温障害回避と作期分散を目指した「はえぬき」の晩植栽培への挑戦	登熟期の高温障害回避及び収穫時期の分散を図るための「はえぬき」の晩植栽培、また晩植時の苗播種密度や栽植密度による収量への影響を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> 移植時期の違いによる生育及び収量・品質 高度密播育苗の特性把握 高温条件下での健苗育成 経営評価
鈴木 星名	「つきあかり」より早く収穫できる早生品種の特性の把握	早生種「ちほみのり」の栽培特性、また栽植密度や登熟向上資材活用による収量、登熟への影響を把握し、大規模稲作経営における作期拡大の可能性を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ちほみのり」の特性把握 栽植密度と生育収量への影響 経営評価
土門 結音	「ササニシキ」の高温登熟における品質向上技術の検討	「ササニシキ」の高温登熟条件下での品質向上のため、施肥改善及びバイオスティミュラント資材の活用による登熟向上及び倒伏軽減効果を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ササニシキ」の特性把握 高温登熟の品質収量への影響 経営評価

2 学年 教育計画 [果樹経営学科]

氏名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
安達 由妃	エッセンスを使った訪花昆虫の誘引法とリンゴの早期摘花による早期着果管理の検討	訪花昆虫に対するフローラルエッセンスや色彩等の誘引効果を検討する。リンゴの早期摘花による省力的な着果管理方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オウトウ、リンゴの栽培技術と知識 ・結実確保対策 ・訪花昆虫の利用 ・着果管理技術
小野 煌介	リンゴの作業省力化と中生品種を中心とした果実軟化軽減効果の検討	リンゴの低樹高化と摘果剤を活用した作業省力化を検討する。葉面散布資材による果実軟化軽減効果を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴの栽培技術と知識 ・整枝・せん定技術 ・摘果剤の活用 ・葉面散布剤の利用方法
上村 里緒	西洋ナシ有袋栽培による高品質果実生産と晩生モモの作業分散及び落果防止の検討	西洋ナシ有袋栽培及び遅もぎにより高品質果実生産を検討する。モモの摘蕾による作業分散、有袋栽培、葉面散布剤による品質向上と収量確保について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋ナシ、モモの栽培技術と知識 ・西洋ナシ、モモの有袋栽培技術 ・葉面散布剤の利用方法
菊地 海良	異常気象に負けないおうとうの安定生産及び摘花による作業分散と果実の高品質化	オウトウの霜害対策としてスミサンスイを活用した簡易な樹上散水法を、高温対策として遮光法の検討を行う。加えて、摘花による作業分散と収量確保・高品質化について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オウトウの栽培技術と知識 ・霜害対策、高温対策技術 ・摘花技術
斎藤 大輝	オウトウにおける葉摘み時期、程度の違いによる着色、品質向上並びにアミノ酸肥料の施用とモモの透明有袋栽培の確立	オウトウの葉摘み時期と程度の違いによる果実品質と葉面散布剤を活用した高品質果実生産について検討する。モモに透明有袋を使用し、病虫害防除効果を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オウトウ、モモの栽培技術と知識 ・オウトウ着色管理技術 ・葉面散布剤の利用方法 ・有袋栽培技術
塩野 悠斗	シャインマスカットの大房栽培での糖度UPと省力化	ブドウ「シャインマスカット」の大房生産と葉枚数の違いによる糖度向上を検討する。加えて、摘粒時期を変えることによりオウトウの収穫作業との労力分散を図れないか検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウの栽培技術・知識 ・大房を目指した花穂整形技術 ・新梢管理、摘粒技術
高橋 巧磨	りんご「ふじ」における薬剤散布による作業省力化とぶどう「巨峰」における環状剥皮と透明果実袋使用による着色向上の検討	リンゴ「ふじ」で摘花剤、摘果剤を使用し着果管理作業の省力化を図る。ブドウ「巨峰」で環状剥皮の着色向上効果を検討するとともに、透明果実袋（BIK00）活用による着色向上効果を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴ、ブドウの栽培技術・知識 ・摘花（果）剤の活用 ・ブドウ環状剥皮技術 ・有袋栽培と着色管理
生井 将暖	シャインマスカット省力化栽培技術の習得	ブドウ「シャインマスカット」のジベレリン1回処理技術による作業省力化とジベレリンの早期花穂処理により果房整形作業の省力化を検討する。加えて、「デラウェア」のジベレリン1回処理による実用性を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブドウの栽培技術・知識 ・植物成長調整剤の活用 ・花穂整形技術

山口 晴臣	モモ「川中島白桃」ビニール早期被覆による作業分散並びにオウトウ雨除け被覆の穴あけによる温度管理の検証	モモに簡易無加温施設を導入し、同一品種間での作業分散を検討する。オウトウ収穫期の高温対策として雨よけビニールに換気用の穴をあけ、施設内の温度低下効果による高温障害果抑制効果を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> ・モモ、オウトウの栽培技術と知識 ・無加温施設の温度管理と結実確保方法 ・オウトウ施設管理技術
横尾 匠	西洋ナシの強摘芽による作業省力化、果実肥大促進及び日本ナシの雨よけ栽培による病虫害予防効果の検討	西洋ナシの着果管理作業を摘芽のみで行い、作業省力化と高品質化を目指す。西洋ナシ、日本ナシで雨よけ栽培や反射資材を工夫することにより病虫害の防除効果を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋ナシ、日本ナシの栽培技術と知識 ・摘芽作業による着果管理技術 ・雨よけ栽培技術 ・防鳥被害防止技術
横沢 真奈花	オウトウ栽培の作業省力化と葉面散布剤を活用した高品質果実化に向けて	オウトウの結実確保対策として溶液受粉技術を用い、受粉作業省力化を目指す。葉摘み作業の有無による作業省力性を確認するとともに、葉面散布剤を使用し、着色向上効果を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オウトウの栽培技術・知識 ・溶液受粉技術と花粉の確保 ・葉面散布剤の利用方法

2 学年 教育計画 [野菜・花き経営学科 野菜コース]

氏 名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
青戸翔汰朗	さといも「土垂」の8月どり栽培における収量増加を目指して	さといも「土垂」の8月どりにおいて、さらなる収量増加を目指して、保温方法や定植時期、苗の大きさ、土寄せの回数等を検討する。また、自作分離機を使った収穫作業の効率化についても検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 初期生育確保技術 ・ 作業効率化評価手法 ・ 経営収支試算
大久保達希	アンデスメロンの6果どり栽培への挑戦と放任栽培用メロンを活用した省力栽培	メロンの主力品種「アンデス」の6果どり栽培や収穫時期が判断しやすい黄皮の放任栽培用品種「ムーンライト」を用いた省力栽培を検討する。また、直売所におけるマーケティング調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 草勢維持管理技術 ・ 販売戦略手法 ・ 経営収支試算
後藤 尚顕	おかひじきの豚糞堆肥の利用と夏季高温対策の検討および採種方法の改善	「おかひじき」の栽培において、豚糞堆肥の利用方法や夏季高温対策として、遮光ネットハウスでの栽培を検討する。さらに、自家採種の種子の品質低下が課題であることから、採種方法の改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 高温対策技術 ・ 採種技術 ・ 経営収支試算
寒河江純大	種なしピーマンの完熟果での収穫と仕立て方法、および側枝処理技術の確立	種なしピーマン「タネなっぴー」を完熟果で収穫し、一般的なパプリカやカラーピーマンと品質を比較し、市場や実需者などにマーケティング調査を行う。また、主枝の仕立て方法や側枝の処理技術を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 草勢維持管理技術 ・ 販売戦略手法 ・ 経営収支試算
鈴木 華穂	ミニトマトの高糖度栽培および尻腐れ果対策の検討	ミニトマトの付加価値販売のため、安価なトロ箱を利用し、養液を使った高糖度栽培を目指す。また、摘葉処理による尻腐れ果対策を検討する。さらに、女性に負担の少ない誘引・仕立て方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 隔離栽培技術 ・ 作業強度評価手法 ・ 経営収支試算
戸田 芳直	大玉すいかの9月どりと省力化のための小玉すいかのつる引き回数の検討	9月どりすいかの需要の増加に対応するため、大玉すいかの播種、定植時期や共台を利用した高品質栽培を検討する。さらに、省力化のための小玉すいかのつる引き回数と労働時間についての調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 草勢維持管理技術 ・ 販売戦略手法 ・ 経営収支試算
早坂 俐玖	遮光ネットを利用した7月どりねぎ栽培と豚糞堆肥施用量の検討	夏季高温による収量低下への対策として、遮光ネットハウスで土寄せせずに2L規格以上のねぎを生産できる軟白方法や灌水方法を検討する。また、環境負荷低減を目指し、豚糞堆肥施用量の検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 土寄せ軟白手法 ・ 灌水管理技術 ・ 経営収支試算
本田 泉月	ミニだいこんの品種比較と加工の検討	だいこんの消費形態の変化に伴い、加工や業務用品種へのニーズに対応するため、ミニだいこんの春播きトンネル栽培と秋播き栽培に適する品種や加工品、さらに万人受けする商品や簡単レシピを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培技術 ・ 加工技術 ・ アンケート評価手法 ・ 経営収支試算

2 学年 教育計画 [野菜・花き経営学科 花きコース]

氏名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
佐藤 悠万	ストック オールダブル品種の検討とシャクヤクの日持ち調査	ストックで八重鑑別不要のオールダブル品種を早播きで栽培し、従来品種と比較検討する。さらに開花促進剤の効果と影響を調査する。 また就農後に導入を予定しているシャクヤクについて、日持ちを向上させる品質保持剤を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的栽培技術 • 開花調節技術 • 生育、収量、品質調査 • 切り花の品質保持方法 • 経営収支、労働時間の評価
長瀬 結歩	切り花マリーゴールド夏出荷作型の高品質栽培と新資材の検討及び需要調査	切り花マリーゴールド夏出荷において課題である茎や花首の軟弱化を抑制し高品質化することを目的として、各種資材の効果を検討する。さらに実需者・消費者のニーズを調査する。	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的栽培技術 • 高品質化のための栽培方法 • 生育、収量、品質調査 • 需要調査と評価 • 経営収支、労働時間の評価
柳橋 舞	ベニバナの出荷時期拡大の検討と需要調査	出荷時期がほぼ夏前の季咲きに限られているベニバナについて、短日処理による8月出荷と品質向上を目指す。さらに秋出しに適した播種日を検討する。また実需者・消費者ニーズを調査する。	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的栽培技術 • 開花調節技術 • 生育、収量、品質調査 • 需要調査と評価 • 経営収支、労働時間の評価

2 学年 教育計画 [畜産経営学科]

氏名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
荒川 恵斗	黒毛和種経産牛の老廃牛肥育による肉質向上とゼブラ柄塗装による吸血昆虫対策	黒毛和種経産牛を老廃肥育することにより肉質の向上について調査する。また、黒毛和種繁殖牛及び放牧牛をゼブラ柄に塗装することによる吸血昆虫の抑制効果について検証する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料給与設計 ・ 肥育牛の飼養管理 ・ 枝肉及び肉質の評価 ・ 枝肉の流通
早坂 凌雅	黒毛和種育成牛の放牧管理と繁殖技術の修得	黒毛和種の繁殖向け育成牛の放牧管理技術と繁殖技術の修得を目指す。具体的には、放牧前舎飼期、放牧前馴致期、放牧期における飼養管理を実践し、放牧期間中に自ら人工授精を実施することにより繁殖技術を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料給与設計 ・ 育成牛の飼養管理 ・ 放牧前の馴致法 ・ 放牧牛の発情観察 ・ 家畜人工授精
深瀬 和華	黒毛和種子牛への強化哺乳における生菌剤投与効果の検証と黒毛和種繁殖牛の代謝プロファイルテストによる分娩間隔の短縮	黒毛和種子牛の人工哺育における生菌剤の投与効果を検証する。また、黒毛和種繁殖牛の飼料給与内容を代謝プロファイルテストの活用により修正管理することで発情周期の適正化を促し分娩間隔を短縮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工哺乳 ・ 哺乳・育成期の飼養管理 ・ 飼料給与設計 ・ 血液分析法 ・ 家畜人工授精
眞見 理緒	リンゴジュース粕の給与が発育及び肉質の及ぼす影響調査	リンゴジュース粕を肥育牛に給与し、発育及び肉質に与える影響について調査する。併せて、リンゴジュース粕の長期保存法として、フレコンラップと脱酸素剤の効果についても調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料給与設計 ・ 肥育牛の飼養管理 ・ 枝肉及び肉質の評価 ・ 飼料の長期保存法 ・ 枝肉の流通

2 学年 教育計画 [農産加工経営学科]

氏名	卒論課題名 (仮)	課題の内容	主な指導事項
鈴木 尊	さくらんぼを使った飲食店で使用できる加工品開発	さくらんぼを加工する上で必要な種取りを省力するための発酵方法を調査する。その発酵原料を使用したソース、ドレッシングと種有原料活用の漬物を開発する。試作品は、我が家の弁当屋のメニューでの活用を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果実の種取りの省力化 ・ 試作製造 (ソース、漬物) ・ 食品品質評価 ・ 試験販売 ・ 経営試算
清野 瑞季	庄内柿を使用した新たな加工品の開発	庄内柿の熟度等による渋味と渋戻り状態を調査し、渋戻りの少ない原料の条件を把握する。その原料を使ったソースや菓子を開発し、地元のレストランへ提案することを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果実熟度の渋味と渋戻りの把握 ・ 試作製造 (ソース、菓子) ・ 食品品質評価 ・ 試験販売 ・ 経営試算

2 学年 教育計画 [林業経営学科]

氏名	卒論課題名	課題の内容	主な指導事項
柿崎啓太	農大伐木技能評価基準の設定による伐木技能及び安全性向上のための取り組み	伐木技能の評価基準(案)を設定し、客観的指標を設け学生の伐木技能の向上を図るとともにこの取り組みを地域に広げるために林業技能検定トライアル研修に協力し現場の安全への意識の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・農大伐木技能評価基準(案)作成 ・森林組合、林業大学校への伐木技能アンケート ・林業技能検定トライアル研修参加者へのアンケート
河原直希	南陽市秋葉山における森林火災後の二次遷移の実態	令和6年5月に発生した南陽市秋葉山の森林火災後の森林状況と森林再生の方法などを調査し、現地の遷移に関する考察を行い、秋葉山の更新と遷移に関するモニタリングのための基礎資料としたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や森林組合と意見交換 ・森林火災後の植生調査 ・火入れ後の森林データ取得 ・森林遷移に関する考察
岸 陽杜	JLC 競技形式を取り入れた伐木操作技術向上のための取り組み	JLC(日本伐木チャンピオンシップ)に出場し、競技の現場作業への波及効果の把握と伐木競技体験会開催を通じた伐木技術向上、労働災害の低減及び林業の魅力発信につながる伐木競技の森林・林業関係者への理解促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JLC 競技の練習 ・JLC 競技者へのアンケート ・伐木競技体験会の開催に向けた調整・準備
貞包美麗	広葉樹を活用した木工品製作と木育プログラムの検討	一般県民に木の良さについて知ってもらい木を身近に取り入れてもらうことを目的とし、才治沼実習林の広葉樹を利用した木工品の制作・販売と木育プログラムの検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉樹伐採・製材方法 ・広葉樹の乾燥 ・木工品の制作 ・木育プログラムの作成
佐藤 希	森林・林業への理解促進と担い手育成につながる木育の実施方法の検討	スギの主要な生産地である真室川町において次世代を担う若者、特に小学生を対象とし、森林・林業への理解を高めることに加え、林業の担い手育成も目的に加えた木育プログラム・アクティビティの作成及び実施、検証を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・スギの加工方法 ・木育プログラムの作成 ・林業体験の準備 ・木育プログラムの実施・評価
相馬一斗	庄内海岸林におけるクロマツ枯損被害状況の把握と広葉樹樹種転換の可能性	松枯れ被害が過去最高となった庄内海岸林のクロマツ激害地において被害状況を把握するとともに農林大学校の授業で学んだ広葉樹への樹種転換やクロマツと広葉樹の混交林への移行の可能性について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・被害状況の把握方法 ・行政・地域コミュニティーとの意見交換 ・侵入広葉樹の生育状況の把握とモニタリングへの対応
宗像大地	下刈りの省力化技術の検討	夏の暑い時期に行い林業において最も過酷な労働である下刈りの省力化技術について、誤伐防止技術を含めて調査し検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下刈り実態の把握 ・省力化技術状況の把握 ・誤伐防止技術の検討 ・下刈り終了時期の判断基準の検討

令和7年度地域協働研究プロジェクト一覧表

学科	プロジェクト名	取組内容	連携先
稲作 経営学科	酒造好適品種 の倒伏軽減プロ ジェクト	連携先の酒米研究会では、高品質な酒造好適米の生産を目指し現地研修・巡回を通して品質向上に努めてきた。一方で、品種特性である稈長の長さにより年次によっては著しい倒伏がみられ、品質や作業性の低下が課題となっていた。そのため、校内圃場で倒伏軽減に関する試験を実施し、倒伏軽減に資する取り組みを共有することで酒造好適米の生産振興への貢献を目指す。	もがみ中央農業協同組合北部営農センター酒米研究会「ゆびきりげんまん」
果樹 経営学科	最上さくらんぼ の生産振興PJ	最上地域での山形C12号の普及の一助となるため、関係機関と連携しながら、農業技術普及課の生育展示ほや本校の山形C12号の調査や試験研究成果の実証をおし、最上地域での普及にむけた課題の洗い出しや解決に取り組む。また、気象災害の発生が近年多発しているため、従来品種の結実対策や着果管理、着色管理の徹底による高品質安定生産の実証調査を生産者と共に行う。	最上さくらんぼブランド確立PJ推進協議会
野菜花き 経営学科 野菜コース	地域資源を活用した野菜生産 プロジェクト	近年、大規模養豚場が稼働し、堆肥生産も行っているが、豚糞堆肥は、野菜に対する肥効や施肥量が不明な点が多いため、有効活用が図られていない。そこで、本プロジェクトを通して生産者、関係機関等と連携し、主要野菜における豚糞利用についての課題解決に取り組み、地域資源(豚糞)の利用拡大、肥料コスト低減につなげるとともに、学生に対して、環境負荷軽減に配慮した資源循環型農業に対する意識の醸成を図る。	戸沢村耕畜連携協議会、株式会社山形戸沢ファーム
野菜花き 経営学科 花きコース	最上の啓翁桜 生産拡大PJ	啓翁桜は県域で生産拡大に取り組んでいる枝物花木である。新産地育成を目指す普及課と連携し、植調剤を利用した全枝一斉収穫法の改善による収量安定化を目的として、調査・検討を行う。活動を通じて、地域の生産者との交流や生産者と一体となった栽培技術の向上を図り、将来の就農や農業関連の就職定着への一助とする。	最上農業技術普及課、最上地域啓翁桜生産者
畜産 経営学科	耕畜連携による 自給飼料生産 利用PJ	飼料価格高騰が畜産経営を圧迫していることから、飼料コスト低減のため、地域内の自給飼料を活用していくことが重要である。そこで、栽培が拡大しつつある子実用トウモロコシの一層の取組み拡大を目指し、地域の耕種農家と連携した栽培実証を行う。また、畜産経営体において試験的な給与を行い、飼料としての利用性を確認しながら、自給飼料の生産利用による持続可能な畜産経営に対する学生の理解醸成を図る。	最上管内畜産経営体、最上農業振興課
農産加工 経営学科	最上町産農産物 を活用した加 工品開発PJ	最上町の地域特産物を利用した商品開発に取り組み、令和5年秋に開業した「道の駅もがみ」での販売を主体とした開発を進める。商品開発は、最上町の地域特産物の未利用品も活用するなど、町のPRや消費拡大、食品ロス削減につながるよう、町内の生産者や事業者と連携して商品化を推進する。	最上町
林業 経営学科	新庄神室産業 高等学校と連携 した若手林業者 育成PJ 目指せ、スペ シャリスト！	新庄神室産業高等学校と農林大学校林業経営学科の学生が新庄市内の山林での学習を通して、若者の視点からの森林や林業の魅力を共有することで、若手林業者の育成と森林や林業の大切さを理解できる若者の育成を図る。	新庄神室産業高等学校

※ 平成23年度に試行し、平成24年度から教育計画に盛り込み1学年の必修科目として実施

別表4 資格・免許取得等

資格・免許等の取得促進に係る支援整理表

	① 授業での 指導	② 研修会の 開催	③ 欠時補充 の対応	④ 資格講習 免除	⑤ 本校会場 の資格受 験	⑥ 団体受検 による費 用減免
大型特殊自動車免許（農耕用）	○				○	
けん引自動車免許（農耕用）	○				○	
アーク溶接技術特別教育修了	(○)	○	○		○	
JGAP 指導員（GAP 基礎研修）	(○)	○	○		○	
危険物取扱者資格（乙種・丙種）			○		○	
家畜商	○		○			
2級認定牛削蹄師認定講習会・試験（合格）	○		○			
家畜人工授精師資格（牛）	○		○	○一部		
小型車両系建設機械（整地、積込み、運搬）特別教育修了	(○)	○	○		○	
刈払機取扱作業安全衛生教育修了	○					
チェーンソー特別教育修了	○					
車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育修了	○					
赤十字ベーシックライフサポーター認定証及び赤十字救急法救急員の認定証	○					
フォークリフト運転技能講習修了	(○)	○	○		○	
車両系建設機械（3 t 以上）運転技能講習修了	○					
小型移動式クレーン運転技能講習修了	○					
不整地運搬車運転技能講習修了	○					
玉掛け技能講習修了	○					
荷役運搬機械等によるはい作業従事者教育	○					
機械集材装置運搬特別教育	○					
農業簿記検定3級	○				○	
販売士（2・3級）	○			○一部		
フラワー装飾技能検定（2・3級）	○		○			
毒物取扱者資格（一般・農業用）	○		○			
土壤医検定	○				△	
森林情報士（2級）	○			○一部		
日本農業技術検定（2級・3級）	○			○一部	○	○
食品衛生責任者	○					
ドローン操作技術研修	(○)	○	○		○	

* この整理表は目安として示すもので、実施年度の取扱いにより変更になる場合がある。

* 学科により取得できる資格・免許が異なる。

* (○) はいわゆる専攻実習時間内で受講した場合、授業は出席扱いとし、専攻実習以外の場合は欠席扱いとする。